

第三回横須賀・三浦地域懇談会

農商工連携で新たなビジネスチャンスを創造しよう！

～先進事例に学ぶ、事業化成功のポイント～

7月9日（金）セントラルホテル（横須賀市）にて第三回横須賀・三浦地域懇談会を開催。農商工連携で新たなビジネスチャンスを創造しよう！をテーマに、約130名が集まった。冒頭、高橋会長より、農商工連携は地域振興や活性化のキーとして今求められている。求められているということはビジネスになって行くことである。この連携の仕組みにより日本あるいは世界へ貢献できるビジネスの可能性に期待したい等の挨拶があった。

【基調講演】

「農商工連携で地域に元気を！」

関東経済産業局 産業部 部長 増田 仁 氏

今後、何で飯を食うか。政府全体でも新成長戦略のシナリオ（元気な日本の復活）やビジョンを作成。その中、農商工連携、地域資源活用は非常に大きな柱（重点）に位置付けられ期待されている。国の施策として、これから具体的に皆様を応援して行こうと考えている。また海外にどんどん目を向けて活躍しようとする農業者、水産業者、林業者がいる。そういう方々を積極的に応援して行くような枠組みを作り上げ、実際に行動しようとしている。是非皆様ご自身で農商工連携を始めて戴くとありがたい。

「農商工連携で目指すニュービジネス」

日本総合研究所 上席主任研究員 金子 和夫 氏

地域にどんな宝物があるか、企業が持つ技術、地域の農林水産物、これを発掘し次の段階で商品化・事業化を進めることになる。国の政策もこれに添った形で様々な支援事業（戦略をつくる段階での支援、商品チェックの段階での支援、販路開拓での支援）がありこれを効果的に活用することが重要。農商工連携も地域資源活用も3年をひとつのスパンにしている。いきなりモノをつくるという話が各地で起こるが、そうではなく、しっかりと市場を見て、資源を見て、良い戦略をつくる必要がある。また地域の中でキーパーソンは誰か詰めて行くことも重要である。商工会議所や市に音頭を取ってもらい研究会なりワークショップを設け、その中からやる気のある方を見出す。例えば、今の時代、生産に詳しいというだけでなく消費のトレンドとか販路とかデザインについて理解

あるプロデューサー型の人がかうまくキーパーソンになって行くことが期待されている。地元の農林水産業の皆様、製造業の皆様、市町村の皆様、商工団体の皆様が「是非やろうじゃないか」と一緒になって、熱心に交流して行く中で新しいプロジェクトを生み出して戴きたい。

【先進事例紹介】

司会

日本総合研究所 上席主任研究員 金子 和夫 氏

発表者

(株)ビオファームまつき 代表取締役 松木 一浩 氏

(株)共立 代表取締役 上野 賢美 氏

金子氏司会のもと農工商連携をうまく活用している先進的な取り組み事例を紹介。その後、松木氏、上野氏と意見交換を行った。



農商工連携のメリットについて、「何か新しいものを作りたい、それを販売する時どうしたらいいか？」など設備的なもの、マーケティング的なものへ金銭的補助のあることが一番大きい。更に「ああしたらいいよ、こうしたらいいよ」など細かくアドバイスして戴く方（例：中小企業基盤整備機構等）が定期的に来て戴いているところや単にメールで書類出さないではなく、現在の進捗状態はどうなのか、販売のルートはどうするかなど、弱みの部分を手助けして戴けるとありがたい。また苦労話について、「連携者の方々の意識を同じレベルにもっていく為の取りまとめ」や「連携者との信用・信頼の構築」に一番苦労した。と両氏より現場からの生の声を戴いた。引き続き横須賀・三浦商工会議所専務理事の浜田氏より三浦半島地域における地域資源を活用したまちづくりへのメッセージを戴いた。最後に地域活性化委員会・早川委員長より挨拶を戴き閉会とした。